資料番号	2

令和７年６月 27 日
課　名　農林水産局農業生産課
担当者　課長　出原
内　線　3590

農林水産物の生産等概況について

１　要旨・目的

県内産農林水産物の生産及び販売の概況を報告する。

２　現状・背景

―

３　概要

(1) 調査対象

卸売市場、出荷団体等

(2) 調査期間

令和７年２月～令和７年５月（※一部の品目については、令和７年２月～令和７年４月）

(3) 調査結果

ア　農産物

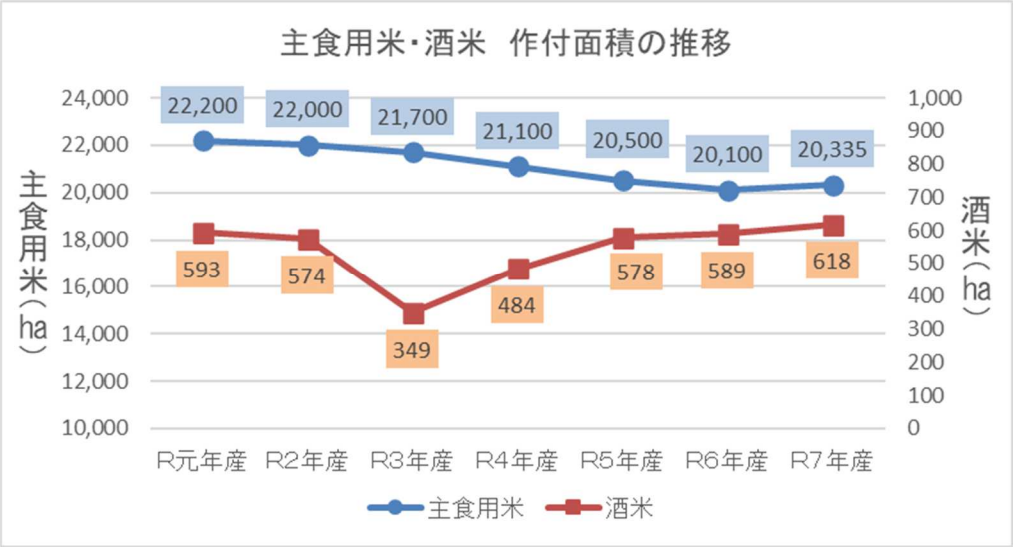
(ｱ) 普通作物の生産状況

ａ　水稲

４月末現在の主食用米の作付面積は、前年の実績より 235ha 増加して 20,335ha と見込んでいる。

また、令和３年産まで需要が減少していた酒造好適米（酒米）の作付面積は、令和４年産から回復に転じており、令和７年産は前年産から約 30ha 増の 618ha と見込まれ、需要減少前の水準を上回っている。

田植えは５月末現在で、前年と同程度の８割近くが終了しており、生育は順調である。



ｂ　大豆

大豆は三次市や東広島市等で栽培され、作付面積は前年から約 40ha 減少し、360ha となる見込みである。

現在、播種作業が始まっているところであり、７月下旬に終了する予定である。

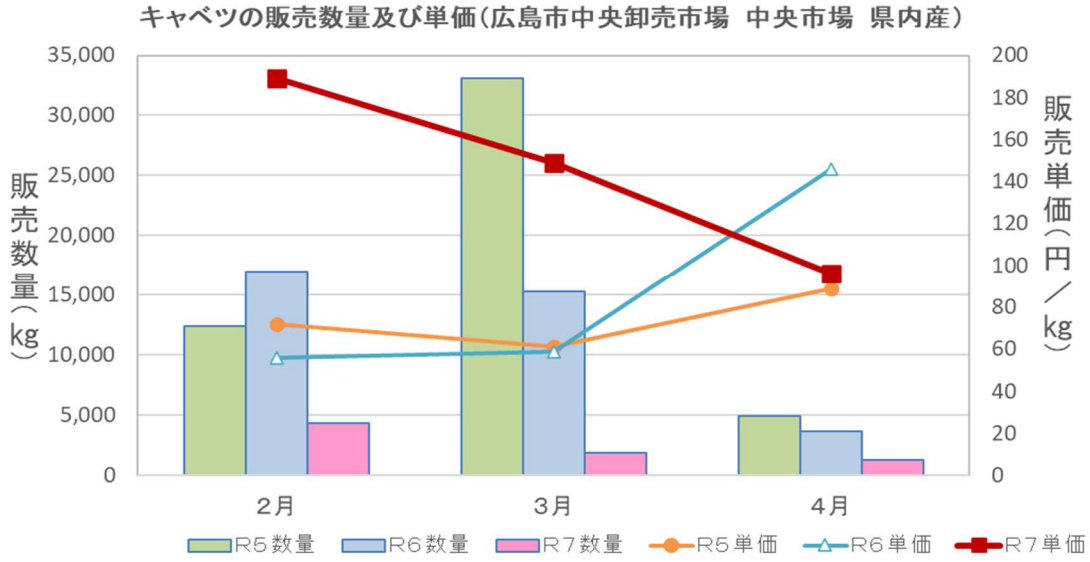
(ｲ) 野菜の生産状況

２月までの低温の影響により、葉物野菜を中心に３月中旬までは生産量・入荷量が減少して高値傾向で推移していたものの、気温が平年並みに戻った４月以降は、生産量・入荷量は増え、安値傾向で推移した。

a　キャベツ

主に尾道市因島や江田島市等の県南部で生産されたものが流通している。

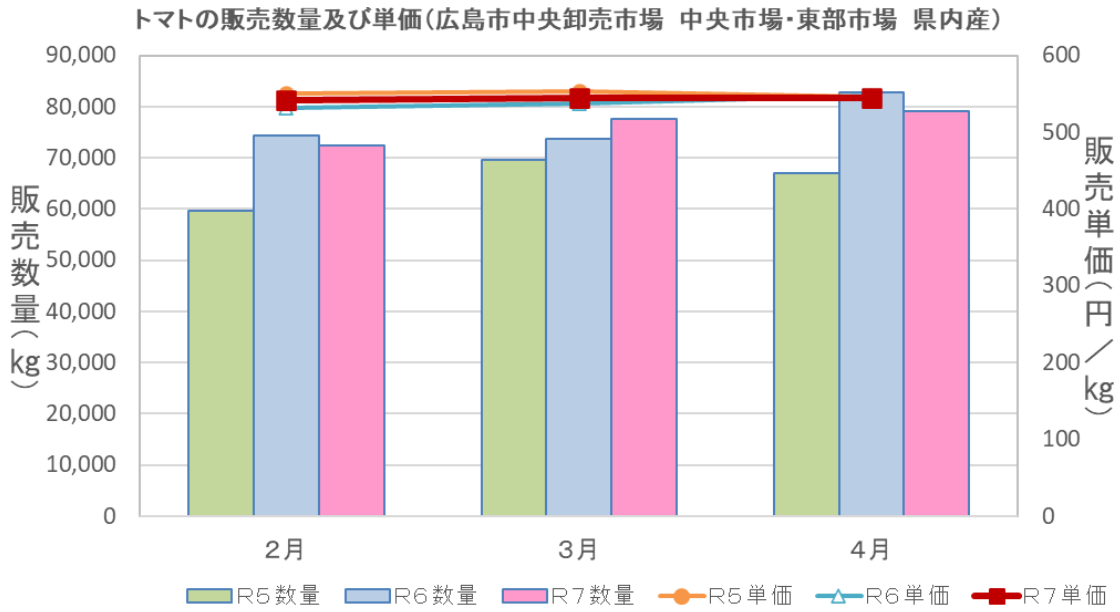
販売数量は、低温の影響により、３月までは例年の１～３割程度となった。単価は１月以降、例年の３倍を超える水準で推移したが、４月には落ち着いている。



b　トマト

冬春トマトは呉市等の県南部で生産され、７月初旬まで出荷が予定されている。

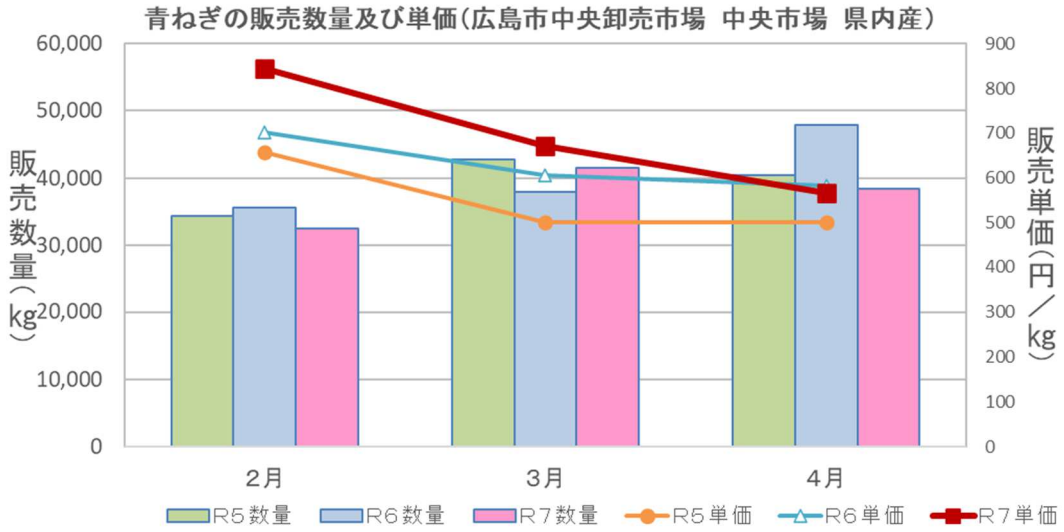
春先は、平年より低温で推移する期間が長かったものの、２～４月の販売数量は例年並みから約 110%となった。この時期に出荷されたトマトは契約販売が主体のため、価格は例年並みとなった。



c　青ねぎ

安芸高田市等で生産されたものが周年で流通している。

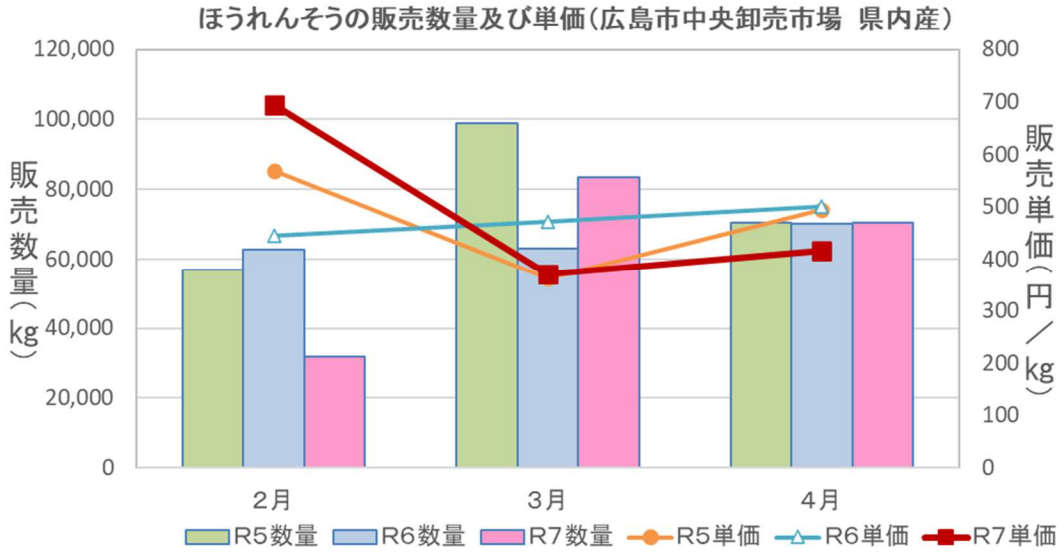
数量は例年の約１～２割減で推移し、単価は３月が例年の約 120～130％で推移した。



d　ほうれんそう

主に広島市や庄原市で生産されたものが流通している。

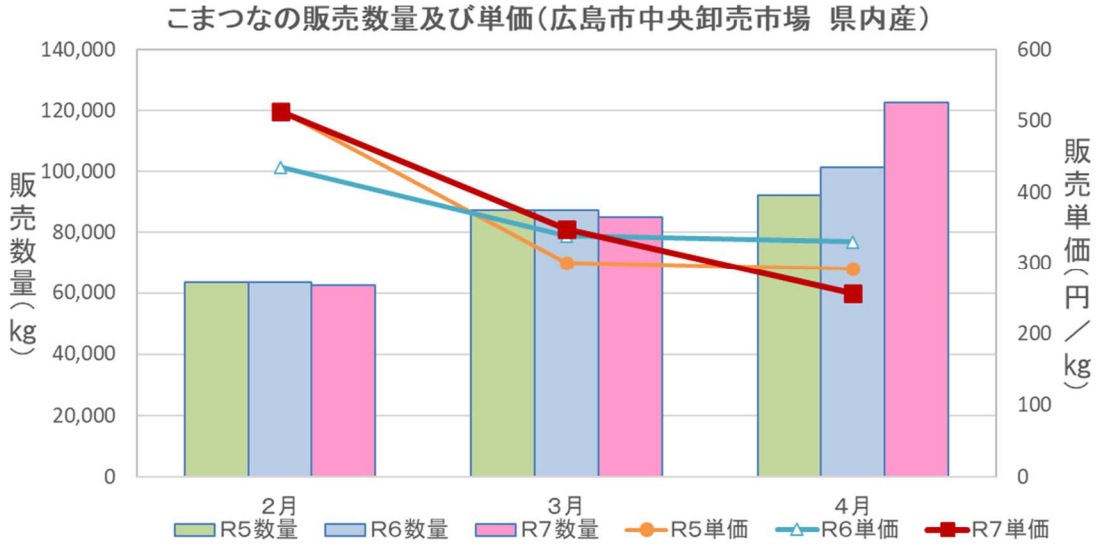
販売数量は、３月初旬までは例年の約５割と少なかったが、３月中旬以降は例年の約９割まで回復した。単価は２月が例年の約 140％、４月が約 90％で推移した。



e　こまつな

主に広島市や安芸太田町で生産されたものが流通している。

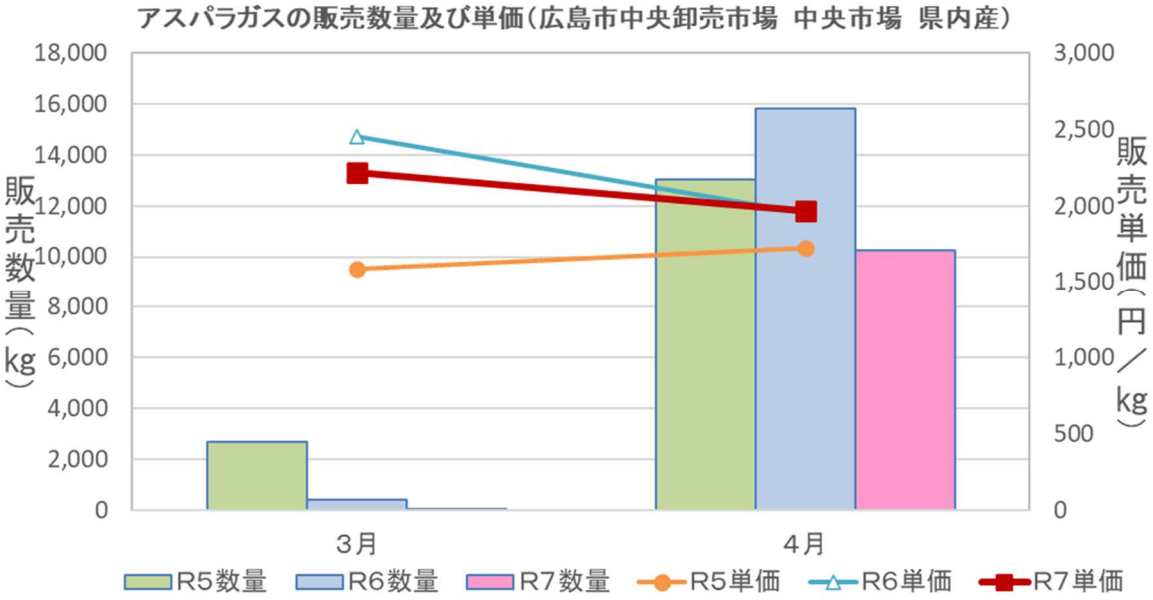
販売数量は、３月までは例年並みに推移し、４月は例年の約 130%となった。単価は、３月までは例年の約 120%で推移し、４月は 85%となった。



f　アスパラガス

主に三次市や世羅町で生産されたものが流通している。県内産は、３月から選果場の稼働と共販が開始した。

販売数量は、低温の影響で３月は例年の３％と過去５年で最低となり、４月も例年の約７割と低水準で推移した。単価は例年より高値で推移した。



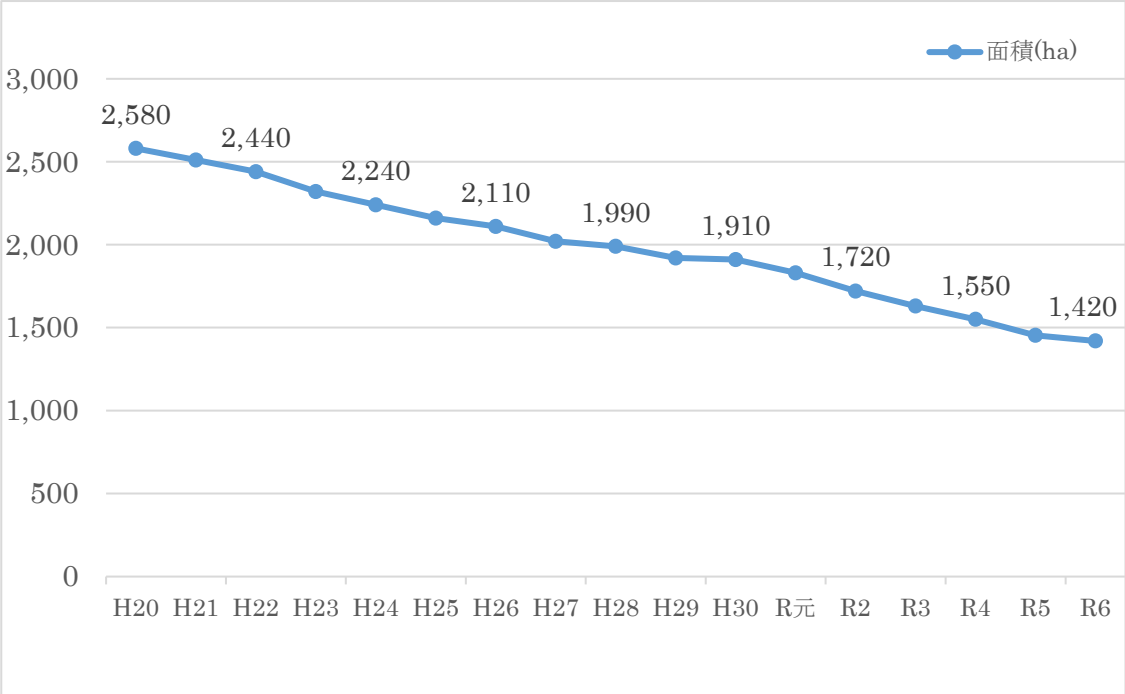
(ｳ) 果樹の生産状況

昨年、発生被害の多かったカメムシの今年の発生割合は、平年より「少から並」となっているが、今後の気温上昇に伴って飛来が増加する可能性もあり、ほ場の定期的な巡回などを心掛ける必要がある。

ａ　うんしゅうみかん

面積は年々減少しており、前年より 33ha 減少し、1,420ha で栽培されている。

うんしゅうみかんの面積推移



生育は、平年より３～５日程度遅くなっている。
令和７年産は表年に当たり、生産量は前年より増加して 12,782ｔと見込まれる。

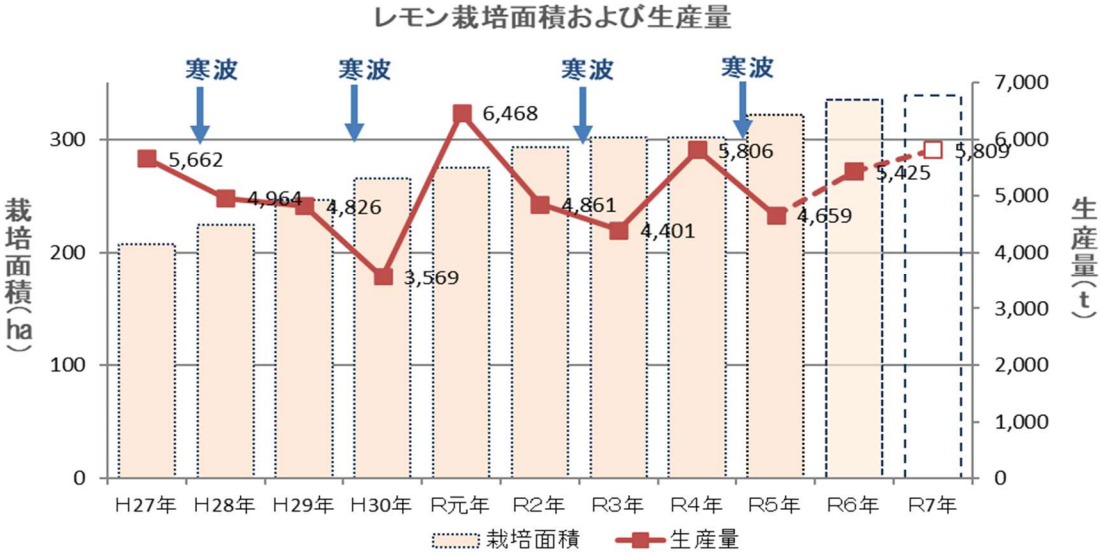
本県産うんしゅうみかんの予想生産量

区　分		生　産　量			対　比	
		令和７年産予想(t)	令和６年産実績(t)	令和５年産実績(t)	R7/R6 (%)	R7/R5 (%)
うんしゅうみかん	極早生	2,503	2,910	3,230	86%	77%
	早　生	5,139	3,950	6,210	130%	83%
	普　通	5,140	4,230	6,190	122%	83%
	合　計	12,782	11,090	15,630	115%	82%

※令和６年・令和５年産実績は「作物統計」（農林水産省）。
　令和７年産予想は、ＪＡ広島果実連調べ（開花・発芽状況調査から推計）。

b　レモン

令和６年産の生産量は、前年に比べ 16%増の 5,425t となる見込みである。



※令和４年産までの数値は、「特産果樹生産動態等調査（農林水産省）」の数値。
令和５年産の数値は、ＪＡ広島果実連調べ（速報値）。

c　レモン以外の主要な中晩柑類

令和６年産の生産量は、生育不良であった令和５年産より多く、販売単価も令和５年産比 116～133%で取引された。

令和６年産　広島県産主要中晩柑類の生産・販売状況

品目	生産量			販売単価		
	令和６年（t）	令和５年比（%）	令和４年比（%）	令和６年（円/kg）	令和５年比（%）	令和４年比（%）
ネーブルオレンジ	1,534	127	88	384	120	126
はっさく	3,626	103	87	334	133	138
しらぬい	2,198	119	75	442	119	130
はるみ	1,145	127	87	481	116	130

※ＪＡ広島果実連調べ（令和７年５月時点）。

d　ぶどう

面積はやや増加し、279ha となっている。

生育は１週間程度遅れており、尾道市産のデラウエアは、例年より３日程度遅く、６月１日から出荷が始まっている。

e　なし・りんご

面積は概ね現状維持で、なしは 140ha、りんごは 89ha である。

開花日は、なしは平年より１～２日遅れ、りんごは平年より３～４日遅れとなった。

凍霜害の影響はほとんどなく、５月の着果量を基にした作柄は、なし、りんごともに平年並みと見込まれる。

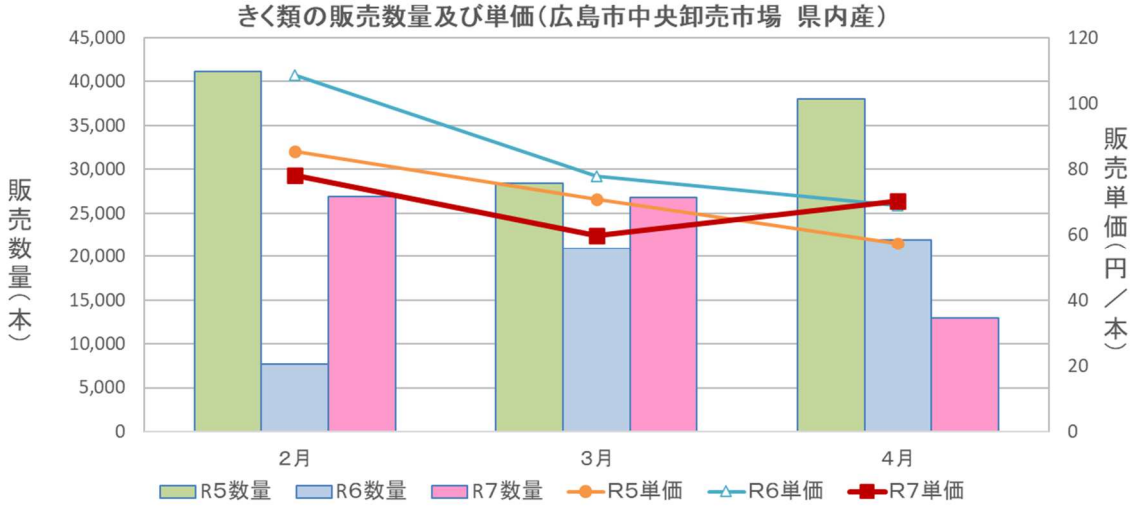
(I) 花きの生産状況

切花全般においては、２月までの天候不順により、４月は大幅に生産量・入荷量が減少したものの、販売価格は他県産の切花が大量に入荷されたことなどにより、一部で低く推移した。

a　きく

江田島市を中心とした県南部から出荷されている。

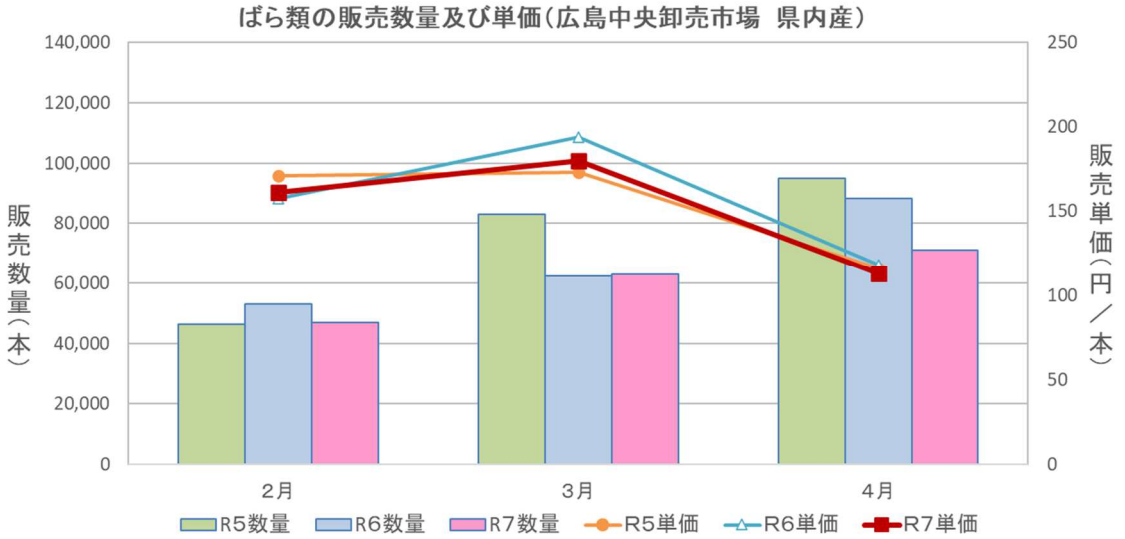
２月までの販売数量は、極端に出荷の少なかった昨年より３～６倍で推移したが、２月までの天候不順の影響により、４月は例年の３割を切った。



b　ばら

主に廿日市市、江田島市、呉市から出荷されている。

販売数量は、例年よりも１～２割程度減少傾向で推移し、販売単価はほぼ例年並みで推移した。

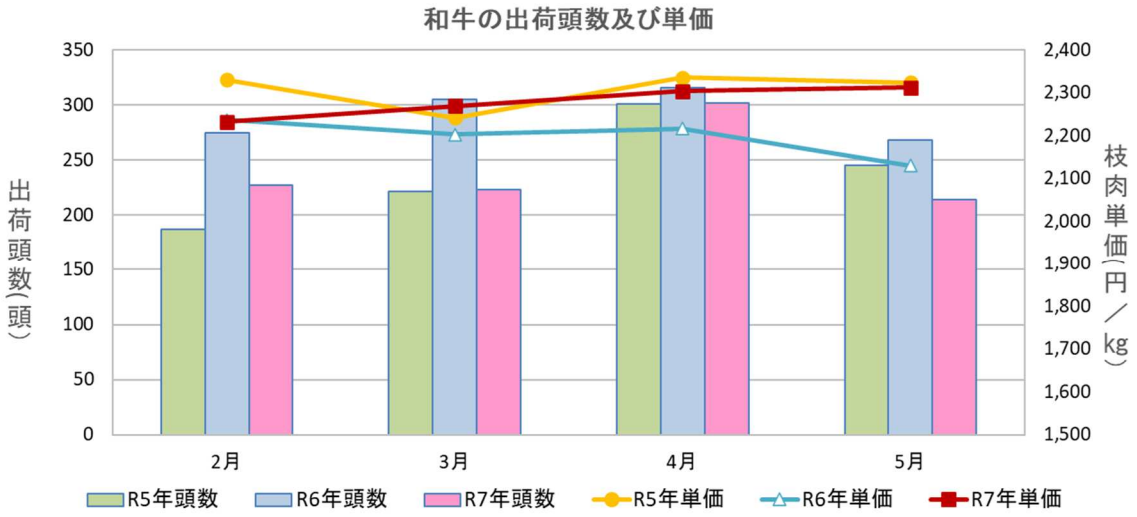


イ　畜産物

(ｱ) 和牛

出荷頭数は、前年を下回って推移している（前年比 73～96%）。

枝肉単価は、和牛肉の販売促進を支援する国の事業やインバウンド需要等により、和牛肉の引き合いが強くなったことから、前年を上回って推移している（前年比 100～109%）。

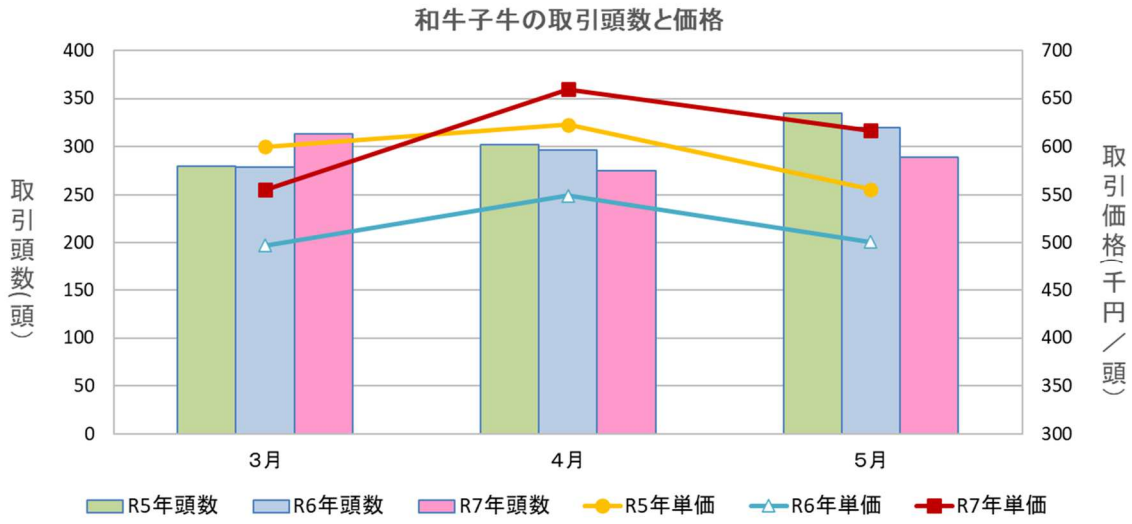


※「食肉流通統計」（農林水産省）。直近月は、「食肉市況速報」（（公社）日本食肉市場卸売協会）から引用。
　出荷頭数は全ての和牛（成牛）、枝肉単価は和牛去勢Ａ４でいずれも広島市中央卸売市場食肉市場。

(ｲ) 和牛子牛

出荷頭数は、月により増減はあるが、前年をやや下回って推移している。

取引単価は、出荷頭数の減少や、来年末の需要期の出荷に向けて肥育経営体の導入意欲が高まったことなどから、前年を上回って推移している（前年比 112～123%）。

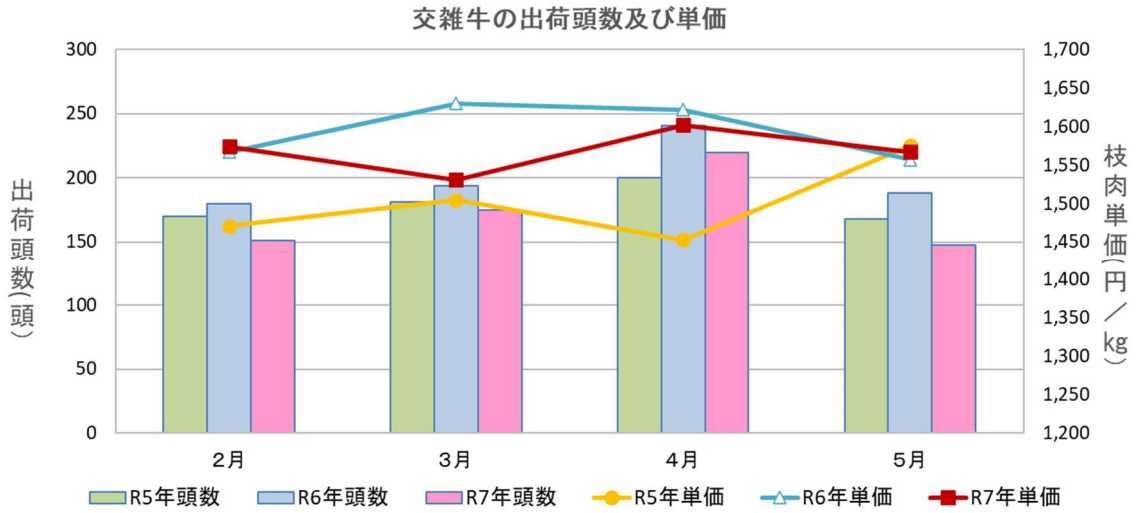


※「肉用子牛取引情報（独立行政法人農畜産業振興機構）」

(ｳ) 交雑牛

出荷頭数は、前年を下回って推移している（前年比 75～91%）。

枝肉単価は、高価な和牛肉からの代替需要により、引き続き引き合いが強いことから、前年並みで推移している（前年比 94～101%）。

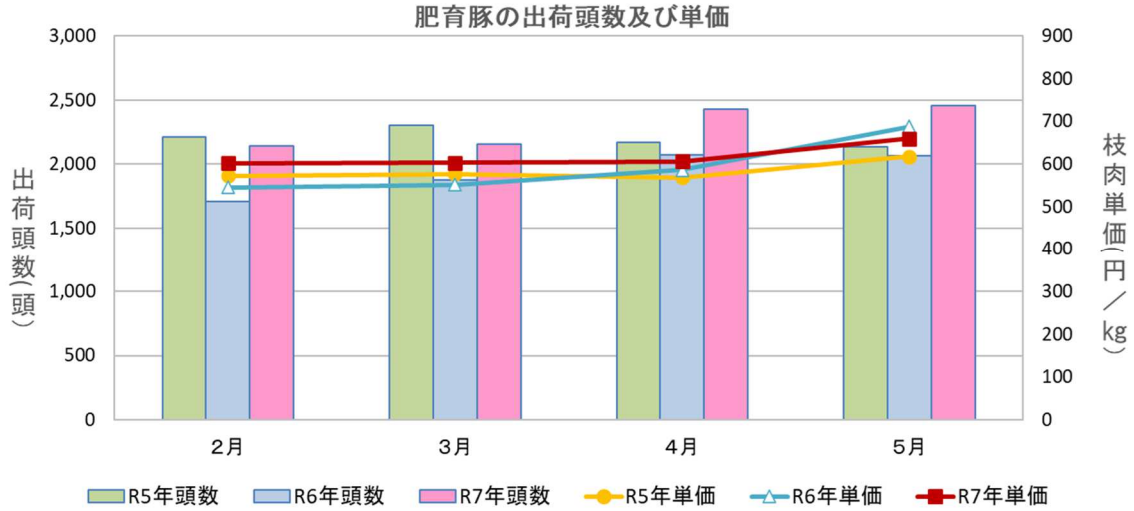


※「食肉流通統計」（農林水産省）。直近月は、「食肉市況速報」（（公社）日本食肉市場卸売協会）から引用。
　出荷頭数は全ての交雑牛（成牛）、枝肉単価は交雑牛去勢 B3 でいずれも広島市中央卸売市場食肉市場。

(ｴ) 豚

出荷頭数は、県外からの出荷頭数が増えたことから、引き続き前年を上回って推移している。

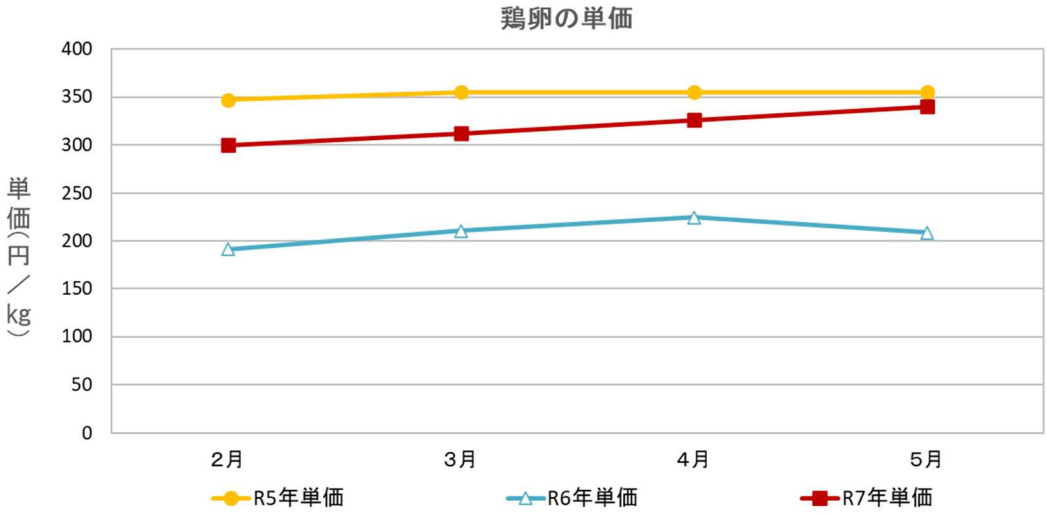
枝肉単価は、前年並みで推移している。



※広島市中央卸売市場食肉市場における取引頭数（上規格）。
※「食肉市況速報」（（公社）日本食肉市場卸売協会）から引用。
　枝肉単価は上規格で広島市中央卸売市場食肉市場。

(ｵ) 鶏卵（全農ひろしま　M）

鶏卵の単価は、高病原性鳥インフルエンザの感染が相次ぎ、全国的に卵の供給が減ったことから、前年を大きく上回っている。

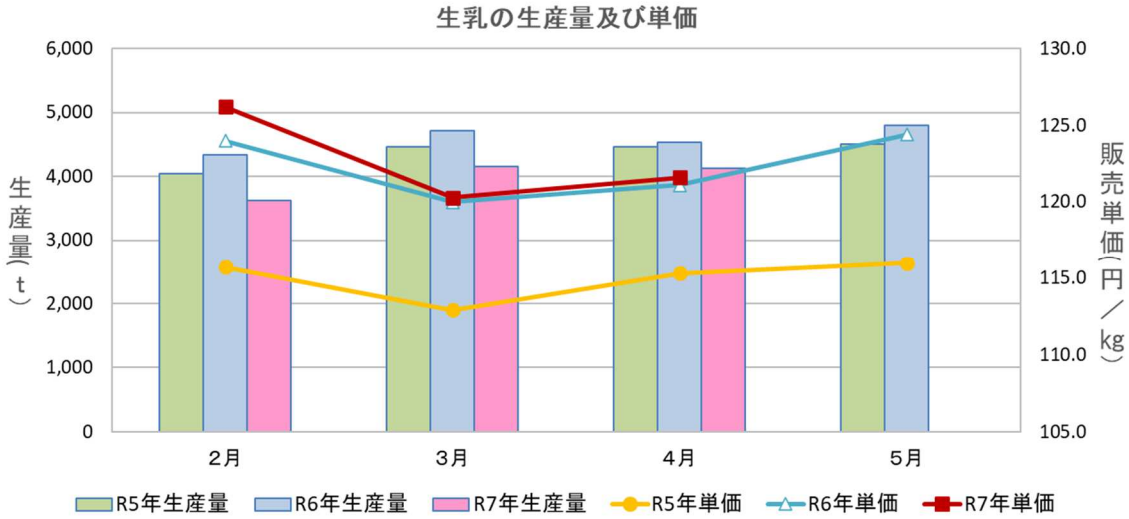


※「全国農業協同組合連合会広島県本部」（M品の単価）

(ｶ) 酪農

生乳生産量は、前年を下回って推移している（前年比 83～91%）。

生乳の販売単価は、前年並みで推移している。



※生乳生産量は、「牛乳乳製品統計」。乳価は広島県酪農業協同組合聞取りで手取り乳価。

(ｷ) 飼料等価格

配合飼料の価格は、円安等の影響により、依然として高値が続いている。

粗飼料の価格についても、依然として高い水準で推移している。

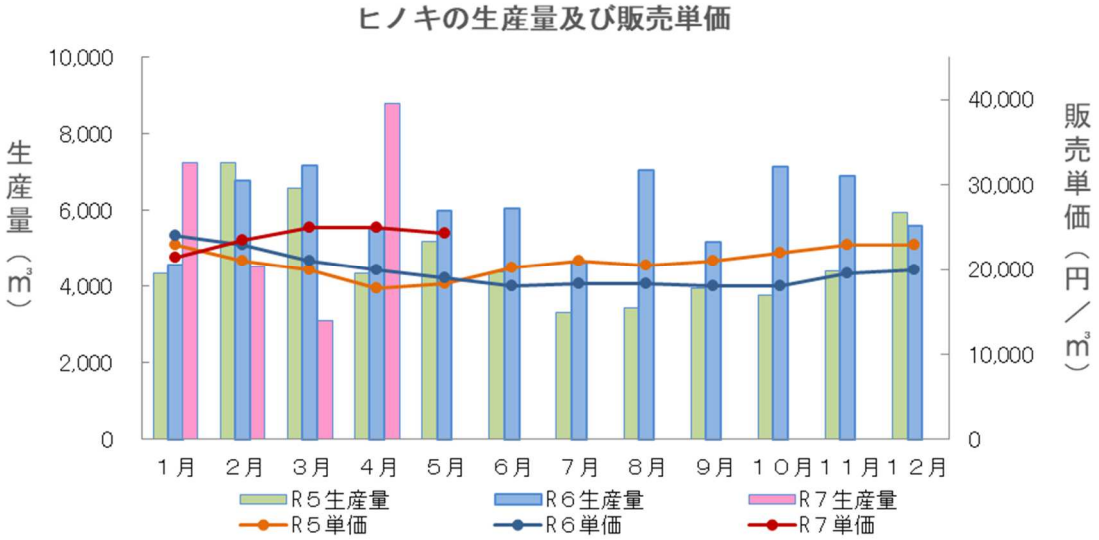
ウ　林産物

木材の生産状況

ヒノキの生産量は、積雪量が前年比約5.5倍となった影響により、２～３月は減少したが、４月は大幅に増加し、１～４月累計では前年と同水準になっている。

販売単価は、積雪の影響により製材工場の原木在庫が減少したことで、引き合いが強い状況が続いており、前年に比べ高値で推移している。

引き続き、木材の価格動向等を注視するとともに、広島県森林組合連合会と連携して、流通状況の把握に努める。



※生産量：県内の森林組合におけるヒノキの生産量（林業課調べ）

販売単価：広島県森林組合連合会三次共販所におけるヒノキの販売単価

エ　水産物

(ｱ) 水温

６月上旬の県内海域32点の表層水温は16.5～20.5℃で、平年差は-2.0～+0.2℃であった。

海　域	広島湾	安芸灘	備後灘
６月上旬の水温 平年差	17.5～20.5℃ -2.0～-0.5℃	16.5～18.2℃ -0.8～+0.2℃	17.8～19.7℃ -2.0～+0.2℃

(ｲ) 漁獲状況

a　取扱数量

広島市中央卸売市場における県内産の主要な漁獲物 17 品目の取扱数量は、マアジで平年を上回った。一方で、残る 16 品目では平年を下回った。

b　取扱単価

県内産の取扱単価については、17 品目中 14 品目で平年を上回った。

広島市中央卸売市場における水産物の販売状況（令和７年４月）

品　目	市場全体						県内産					
	数量			単価			数量			単価		
	t	前年比 %	平年比 %	円/kg	前年比 %	平年比 %	t	前年比 %	平年比 %	円/kg	前年比 %	平年比 %
マダイ	67.3	67	96	834	128	108	28.3	56	99	800	138	113
スズキ	21.3	135	106	657	97	120	6.1	83	81	739	120	138
カワハギ	13.7	97	50	971	96	133	5.4	77	69	1,501	115	140
タコ	9.0	79	70	2,304	106	134	3.0	101	57	2,612	108	141
クロダイ	11.6	66	60	402	128	125	10.4	62	65	413	132	125
コウイカ	1.8	34	18	1,349	135	171	0.7	30	31	1,619	150	173
アナゴ	23.4	85	82	2,585	153	138	2.0	154	85	1,246	159	107
シタビラメ	2.3	94	87	1,313	101	129	1.3	100	87	1,353	109	129
サヨリ	4.9	46	29	1,002	144	121	4.6	61	33	980	249	121
ヒラメ	7.3	88	79	2,140	114	124	1.9	70	80	1,806	122	116
サワラ	22.8	186	121	1,167	68	92	1.8	77	34	1,282	87	110
サゴシ	2.8	42	20	947	104	131	0.1	74	27	830	82	91
キジハタ	0.5	51	87	2,473	124	105	0.4	48	95	2,325	116	98
カサゴ	1.5	71	61	975	112	116	0.7	63	61	957	111	106
オコゼ	0.8	51	24	3,162	136	188	0.3	46	16	2,680	129	167
メバル	6.4	105	49	1,736	104	139	1.5	92	46	1,870	119	140
マアジ	73.1	124	74	621	112	134	1.4	113	270	953	89	68

※　平年値は平成 27 年～令和６年の平均

※　県内産取扱数量　平年比 50%以上増　　単価　平年比 20%以上増

※　県内産取扱数量　平年比 50%以上減　　単価　平年比 20%以上減

(ｳ) 養殖状況

かき養殖

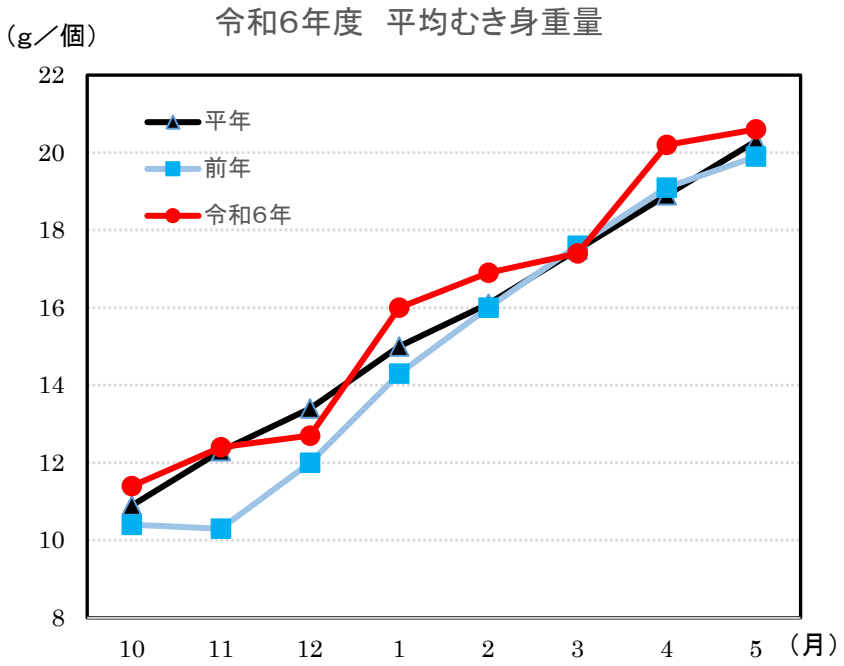
令和６年度漁期（令和６年 10 月～７年５月）のかき養殖は、近年の成育の遅れや、かき殻排出抑制の点から、例年より３週間遅れの 10 月 21 日から始まった。

かきの生育状況については、夏場の高水温及び秋口の水温の下がりが遅かったことから、年内はへい死が多かったものの、年末の冷え込み以降、身入りは平年を上回っており、漁期を通じた生育は平年比 101％となった。

むき身かきの出荷については、かき殻の堆積状況による生産調整も懸念されたが、漁協が主体となった藻場造成における活用などにより、堆積が超過することなく終えることができた。

単価については、冷凍加工向けの需要が強く、２月～５月にかけて高値で推移し、平年比 123％の 970 円/kgとなった。

広島県かき成育状況調査結果

区　分	平均むき身重量（g/個）	平均単価（円/kg）
令和６年度 （平年比）	16.0 （101％）	970 （123％）
平　　年	15.9	790

※平年値は平成 26 年～令和５年の平均